

新聞社による掲載記事の特徴の計量的分析

2002MM013 服部 真弓

指導教員 田中 豊

1 はじめに

就職活動中に社会の動きを知るためにすると良いこと、そして大学生活中、社会に出る準備としてできることは、日経新聞を読むことであると言われる。また、受験の時期には朝日新聞を読むと良いと言われたことを思い出す。毎日のニュースが届く新聞を読むという習慣は大切なものであり、時間がなくても一面だけでも目を通すことができると良いものだ。

そこで、一面の記事にどのような特徴があるのか、5つの新聞社朝日・中日・日経・毎日・読売新聞で、トピックスを社会・経済・政治・世界のニュースという分類にわけ比較、検討することにした。

2 データについて

朝日新聞、中日新聞、日本経済新聞(以後日経新聞とする)、毎日新聞、読売新聞の5社それぞれの新聞(縮刷版)の一面記事の大きさを測り使用した。調査項目は、記事の大きさ、見出しの形(背景の有り無し書体)、見出しの大きさ、写真の大きさ、トップ記事となった回数の6項目と新聞社、掲載日数、分類(社会・経済・政治・世界のニュース)とする。取り上げることとした記事は中間発表までに使用していた『尼崎のJR脱線事故』『ローマ法王の死去交代』『郵政民営化』『ライブドアとフジテレビの和解』の4つのニュースに加え、23のトピックスを調査し、分類社会のトピックス8、分類経済のトピックス6、分類世界のトピックス7、分類政治のトピックス6の合計27トピックスをとりあげ、分析を行った。(いずれも2005年2月から6月の記事)

3 分析方法

折れ線グラフ、箱ひげ図、棒グラフによりデータを記述し、主成分分析、数量化 類により分析した。折れ線グラフでは、記事の掲載経過の流れの類似を比較するためや掲載回数・トップ回数の比率比較をし記事の載せ方の類似を比較することに使用した。箱ひげ図は、それぞれの新聞社の記事の大きさ・見出しの大きさ・写真の大きさのばらつきを比較するために、棒グラフは、各トピックスの調査項目に対する大きさを比較のために使用した。また、主成分分析は、大きく取り扱った記事・見出し・写真の類似、対比を分析するために使用し、数量化 類では、記事の載せ方の特徴の類似を分析するために使用した。

4 記事の大きさの主成分分析

記事の大きさに注目し、5つの新聞社に変数、27個のトピックスを観測値として主成分分析を行った。

主成分					
朝日	0.442	-0.316	0.310	-0.663	0.412
中日	0.435	-0.266	0.448	0.719	0.150
日経	0.366	0.892	0.072	0.011	0.255
毎日	0.498	-0.180	-0.828	0.118	0.142
読売	0.484	0.038	0.112	-0.171	-0.850
固有値	4.629	0.311	0.023	0.020	0.017
寄与率	0.814	0.139	0.040	0.004	0.003
(累)	0.814	0.953	0.993	0.997	1.000

* (累) : 累積寄与率

4.1 分析結果

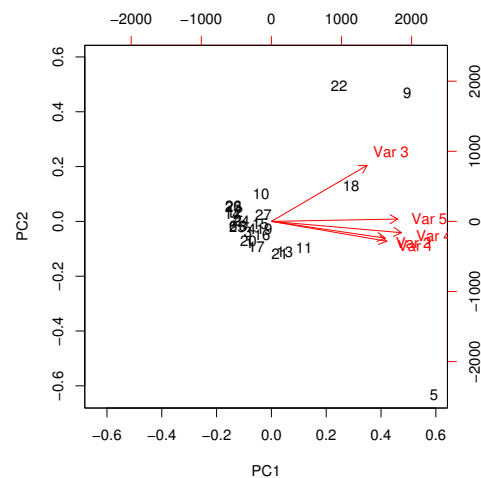


図1 記事の大きさのバイプロット

- 第一主成分—一般的な記事の大きさに関する主成分と解釈される。
- 第二主成分—日経新聞と朝日・中日・毎日新聞3社の対比。数値が大きいのは日経新聞で大きく取り上げられたこと、値が小さいのは朝日・中日・毎日新聞の3社で大きく取り扱われたことを表す主成分と解釈される。
- 上の第2主成分の解釈は、Ver3(日経新聞)の矢印の方向のみが右上がりであり、Ver1・Ver2・Ver4(朝日・中日・毎日新聞)は右に下がっていることに対応している。

- 図の右側にプロットされる 9(ライブドア) と 5(JR) のトピックスは全般的に大きく取り上げられたものであり、上のほうにプロットされた 9(ライブドア) と 22(郵政民営化) のトピックスは日経新聞では相対的に大きく取り扱われ、逆に朝日・中日・毎日新聞では相対的に取り扱いが小さかったトピックスであると言える。逆に下のほうにプロットされた 5(JR) のトピックスは朝日・中日・毎日新聞では相対的に大きく取り扱われ、日経新聞で相対的に取り扱いが小さかったトピックスであると言える。

5 数量化 類の朝日新聞の分析

				...
固有値	6.276e-01	2.604e-01	2.234e-01
寄与率	37.66	15.63	13.40

以下の値は小さかったので省略する。軸の値が比較的大きかった第 1 軸から第 3 軸を、第 1-2 軸、第 1-3 軸という組合せでプロットし、比較したがプロットのされ方は異なるが(第 1-2 軸は 2 次曲線、第 1-3 軸は 3 次曲線)大きな違いは見られなかった。そのためここでは、第 1-2 軸のプロットのみを載せる。

5.1 分析結果

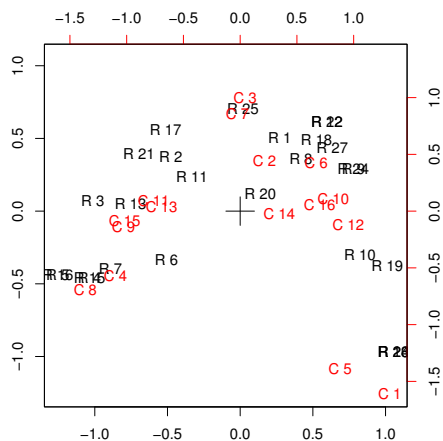


図 2 朝日新聞の数量化 類のプロット

C1~C4 は記事の値が小から大への 4 つのカテゴリーを表すが、第 1-2 軸のプロットを見ると、これら C1~C4 は右下の位置から原点の上側を回って左下へ向かい弧を描き、この流れで記事がだんだん大きくなっていると解釈できる。また、C5~C8 の見出しの大きさも同様に配置されている。この結果から、記事の取り扱い方の小さい方から大きい方への流れが右下の位置から原点を回って左下へ向か

い弧を描くとわかる。従って、C10(見出しの背景無し)より C9(有り)の方が、C12(見出しの書体が明朝)より C11(ゴシック)の方が、C14(写真無し)より C13(有り)の方が、C16(トップ記事でない)より C15(トップ記事である)の方が記事の取り扱いの際、大きく取り扱われたと言えることがわかる。

● 大きな記事 (左端)

R4(福岡の記事：社会)、R5(JR の記事：社会)、R6(偽 500 円の記事：社会)、R7(宮城の記事：社会)、R15(北核問題の記事：世界)、R16(スマトラの記事：世界)

● 小さい記事 (右下)

R14(小田急の記事：経済)、R23(拉致問題の記事：政治)、R26(年金問題の記事：政治)

6 まとめ

主成分分析の結果、各新聞社の対比を見てみると、記事の大きさに関して、今回説明した全体では朝日・中日新聞と日経新聞の対比がみられ、その他分類社会では中日新聞と読売新聞の対比がみられ、分類経済では朝日・毎日新聞と日経新聞の対比がみられた。また、分類世界では朝日・日経新聞と中日新聞の対比がみられ、分類政治では朝日・中日新聞と日経新聞の対比がみられた。

数量化 類の分析結果より、今回説明した朝日新聞の分析では、分類社会に関する記事を比較的大きく、分類政治に関する記事については小さく取り扱っていた。他にも各新聞社別、分類別に分析を行い全体の結果をみると、日経新聞以外は分類社会を大きく乗せており、中でも特に中日新聞が大きく載せている。他の特徴として、分類政治を載せ方が小さかった新聞社は朝日新聞や読売新聞で、分類世界の載せ方が小さいのは毎日新聞であった。

7 おわりに

新聞社の特徴は、それぞれの分析ごとに少しずつ現れた。特に日経新聞は、小さくではあるがいろいろな記事載せていることから、社会の動きを知るために最も適しており、就職活動中に読むと良いとされている理由がわかった。一面記事以外も調べることができたなら、より詳しくわかったと思われる。

参考文献

- [1] 朝日新聞 縮刷版 (2005 年 2~6 月) : 朝日新聞社.
- [2] 中日新聞 縮刷版 (2005 年 2~6 月) : 中日新聞.
- [3] 日本経済新聞 縮刷版 (2005 年 2~6 月) : 日本経済新聞.
- [4] 毎日新聞 縮刷版 (2005 年 2~6 月) : 毎日新聞社.
- [5] 読売新聞 縮刷版 (2005 年 2~6 月) : 読売新聞社.
- [6] 渡辺 利夫 著 : フレッシュマンから大学院生までのデータ解析・R 言語 ナカニシヤ出版